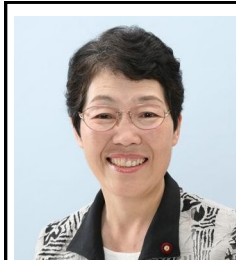


# 日本政府は領有の正当性を一度も理をつくして主張してこず



## 日本共産党市議会議員 松村ヤス子のおはようニュース

2012年9月

つのが第1点。

20日に生放送された「ニコニコ動画の番組」まるごと紹介！  
一気に見せます共産党！で、  
日本共産党の志位和夫委員長  
が尖閣諸島問題について語った  
部分の要旨を紹介します。

### 中国との関係は

**志位** 日本共産党と中国共産党との関係は、1998年の関係正常化以降は、多面的な交流が発展しています。同時に、いづべきときには、モノをいづづいづ立場をとりました。

### 国際法上正当な点

**志位** 尖閣を日本に編入したのは1895年1月。この国の実効支配も及んでいないことを、当時の明治政府が慎重にたしかめたうえで、編入の手続きをした。つまり、「無主（むしゅ）の地」の「先占（せんせん）」といいい、持ち主のない土地を先に占めるという手続きをとった。これは、国際法上、正当だとい

し、実効支配もしていた。明瞭な日本の領土だといえる。

### 中国の主張の弱点は

**志位** 第2点は中国の主張の一番の弱点は1895年に日本が領有を宣言してから、1970年まで75年間にわたって一度も異議も抗議もいってこなかった。これは中国側の主張の一番の弱点。こんなに長い時期異議をいわなかつたら、決着がついてしまつていづのが普通。

第3点の重要な点は、中国の主張は1894年から1895年の日清戦争に乗じて尖閣諸島を日本がとったという主張。だが、これは根拠がない。

日本共産党は日清戦争の講和条約（下関条約）に関するすべての記録を調べてみたが、下関条約で日清戦争の結果として清国から奪ったのは、台湾とその付属島嶼（とうしゅうとう）と澎湖（ほくとう）列島だといふきりになっている。尖閣諸島は出てこ

い。

また、台湾を清国から日本に引き渡す際に、日本と清国の間で問題になったときも、尖閣は、まったく問題外だった。日本が、日清戦争で奪ったのは、台湾と澎湖列島で、これは不当に奪ったものだから返すべき。しかし尖閣は違う、まったく別系統のもの。

### 日本政府は、領有の正当性を一度も理をつくして主張してこなかった

**志位** これが、日本共産党の見解です。問題は、いま私がいったことを、日本政府は中国政府にも、国際社会にもいっていない。理をもつて中国に領有の正当性を主張することを一度もやっていない。

日本政府が「領土問題は存在しない」というために、中国側は「日清戦争に乗じてかすめ取った」というでしょう。それに対して日本側は何の主張も反論もしない。そういう関係になっている。

「領土問題は存在しない」からいわない。主張や反論をいうと、領土問題の存在を認めたい

ようになる。つまり、「自縛自縛」に陥っている。

日中国交正常化をした1972年、田中角栄首相と周恩来首相と会談しており、尖閣のことが1回だけ話題になった。議事録を見ると、田中首相が、「尖閣諸島についてどう思うか」と聞いている。それに対して周首相が「いまこれを話すのは良くない」といって、これで終わっている。事実上の「棚上げ」の合意をした。

1978年、日中平和友好条約を結んだときに、園田さんと鄧小平さん（中国副首相）が会談している。鄧副首相が「二、三十年放っておこう」といったのに対して、「閣下、もうそれ以上いわずにください」といっている。これは「棚上げ」の暗黙の了解です。

元は自民党の責任です。はつきりいって、だらしない外交を自民党はやってきました。



庄本えつこ

8区国政対策責任者